

答 辞

冬の厳しい寒さも和らぎ、桜の便りが待ち遠しい季節となりました。

本日は多くの皆様のご臨席の下、卒業式を挙行していただきますことを、卒業生一同心より御礼申し上げます。

三年前、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、私たちは伝統あるこの高崎女子高校に入学しました。しかし、憧れだった高校に入学した喜びも束の間、一斉休校や分散登校が続き、授業や部活動を思い通りに行うことはできませんでした。先の見えない不安を感じ、何をすべきか分からず、途方に暮れることもありました。そんな時、前を向き、今できることを考え、実行することの大切さを教えてくれたのは、高女の生徒として共に学ぶ仲間や先生方、そして、「向学勸智」という高女の校訓でした。高女のこの校訓は今までもこれからも私たちの誇りです。

二年生になり、後輩たちが入学してきた後も、引き続き部活動や大会が中止や延期となる中、仲間と悩み、思いをぶつけることを通じて、先輩としての自覚を持ちながら少しずつ成長していきました。様々な学校行事も先生方の協力や保護者の方の支えのもと、「新しい形」で行われました。高女生だけの椎樹祭。リモートで応援した球技大会。日帰りとなった修学旅行。どれも、今までの「当たり前」とは違い、悔しい思いもたくさんしました。それでも、私たちは決して色あせることのない、唯一無二の思い出を高女生全員で築き上げてきました。

三年生になり、夢へと一歩近づくことを目指す中で、仲間の存在の素晴らしさを実感しながら、日々を過ごしてきました。勉強や部活動でつらいとき、苦しいとき、同じ悩みや不安を共有できる高女の友人の存在は、かけがえのないものでした。

私たちの高校三年間は、感染症の大流行という未曾有の事態と共にありました。しかし、たとえどんなにもどかしい思いを抱えることがあっても、困難や逆境を言い訳にせず、何度挫けそうになっても立ち上がってきました。それは、「認め合う、高め合う、全力投球」の高女、という素晴らしい環境で仲間と共に学び、歩んできたからです。私たちは高女で過ごした仲間と、笑ったり、泣いたり、悩んだりした時間を忘れません。

在校生の皆さん。今まで本当にありがとうございました。皆さんの周りには、皆さんの挑戦を心から応援してくださる方々がたくさんいます。当たり前ではない、

この恵まれた環境を、そして、伝統ある高崎女子高校をこれからも守っていただきたい。

教職員の方々。優しく厳しく、どんな状況であっても学びを止めず指導してください、ありがとうございます。高女で培ってきた力は、私たちにとって一生の財産です。

保護者の皆さん。私たちの一番近くでいつも応援してください、ありがとうございます。この三年間で、当たり前だと思っていた日常がどれほど愛おしく大切なものなのかを改めて実感しました。そして、世界では信じられないような大惨事が起こる中、帰る場所があり、そこに大好きな家族がいることの素晴らしさとありがたさを身に染みて知ることができました。どうかこれからも私たちのことを温かく見守ってください。

私たちはこれから、夢や目標に向かって、新たな一歩を踏み出します。変化を恐れるのではなく、一度きりの人生を楽しみ、悩みながら歩んでいき、日々の一瞬一瞬を大切にしていきます。自分の人生を変えられるのは自分だけです。これから先、この世界で何が起こるのかは、誰にも何も分かりません。それでも私たちは、高女での経験を忘れず、周りの人を笑顔にしながら、強く生きていきます。

最後になりますが、校長先生をはじめ諸先生方、同窓会やPTAの方々には感謝申し上げますとともに、高崎女子高校のさらなる発展と在校生一人一人の活躍を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

令和五年三月一日

卒業生代表 田口 梨紗